



【中国がわかるシリーズ6】

戦国時代の始まり

出口 治明

戦国時代の始期については、いろいろな説がありますが、ここでは、春秋時代の覇権国、晋が、BC453年、趙、韓、魏の3国(いわゆる3晋)に実質分割された年をもって、春秋時代と戦国時代の分水嶺とみなしておきたいと思います(他に、BC475年説、BC403年説などが唱えられています。なお、大国、晋の最後は、「士は己を知る者の為に死す」と言明した忠臣、豫讓が、飾ることになりました)。

[西]漢の劉向によって書かれた「戦国策」がその名の由来です。戦国時代は、七雄と呼ばれる大国が活躍しました。三晋、燕、齊、秦、楚の七国がそれで、周王室を含めた小国は、更に、その影が薄くなりました。七雄は、それぞれ天命を得たと主張して王を称したのです。周王室の権威の呪縛から、春秋時代の300年を経て、ようやく自由になったのでしょうか(しかし、七雄が王を主張する論拠は、夏商周3代のいずれかから引かれており、決して聖王伝説の呪縛から完全に自由になっていた訳ではありませんでした)。7国にとっては、それぞれの本拠地が中国(中華)で、その他は夷狄の地であったのです(この自国を第一に据える論理は、いずれ後述する東アジア冊封体制の中で、周辺国にも蔓延していくことになります)。

戦国時代に入ると、鉄器が広く用いられるようになり、牛耕と相俟って農業の生産力が飛躍的に増大しました(西アジアの鉄器が、鍛鉄から始まったのに対して、中国では鉄器は、鑄鉄から始まりました。鑄鉄の製造には、より高温の技術管理を必要としますが、ふいごや坩堝は、既に中国では開発済みでした。これは、高度な青銅器技術がもたらしたものです。もっとも、青銅器の技術が高かったため、鉄器の開発が遅れたという側面も否定はできません)。鉄器の活用により、水田も方形に整備されるようになり、生産力が増大したのです。その結果、人口も急増し、大国(7雄)は大規模な軍を動かせるようになりました。当然、自然破壊も一段と進んだことでしょう。商の時代、中原では鬱蒼とした森林が繁茂し、頻繁に象や犀の姿が見られましたが、都市化の進展とともに、森林は急激に減少していきました。河川の氾濫も、この自然破壊と決して無縁ではありませんでした(禹の治水伝説はこうして生まれたのです)。戦国時代という中国史上屈指の高度成長経済の時代を経て、森林や沼沢は姿を消し、黄河は黄濁し、黄土高原の乾燥化が進展したのです。

また、戦国時代には、漢字が祭祀文字から行政文字へと変化し(この間、約1000年を要しています)、各国は、王を頂点とする律令法体系を作り上げ、官僚を使った文書行政を開始しました。い



長期投資仲間通信「インベストライフ」

わば、漢字を扱う書記は、祭祀官から官僚に転進したのです(一部は、更に、諸子百家へと転進することになります)。文書行政が定着すると、上級官僚、下級官僚、支配される民衆という3つの階層が生まれます(上人、中人、下人)。なお、律令が分化(律=刑法、令=その他の民法)するのは、700年後、[西]晋以降のことになります。このように、漢字が広く用いられるようになったので、史料も格段に豊富になりました。誤解を恐れずに述べれば、戦国時代に書かれたものを、漢の時代に整理、体系付けたものが中国の古代史(料)なのです。従って、これらを、読み解くに際しては、戦国時代の視点、漢の視点を忘れる訳にはいかないのです。

戦国時代に至って、都市国家の時代は最終的に終わりを告げ、新石器時代の文化地域を包含した領域国家が、中国で初めて生まれることになりました。春秋時代までは、戦争に敗れても、祖先の祭祀を行うため、国の滅亡は免れましたが、戦国時代に入ると、そのような配慮はなくなりました(敗れた国はもはや滅びるしかなかったのです)。従って、鉄製の武器の使用(ただし、鋭利な青銅製の武器も、始皇帝の時代までは使われ続けました)と相俟って、戦いは、一層、過酷なものとなっていったのです。

戦国時代、最初に覇を唱えたのは、魏の文侯(BC424年即位)でした。魏は、解池(山西省の塩湖)を含めた中原地方を領有しており、経済力(塩の独占販売)や地の利に加えて、名将、呉起(?~BC381年)を登用して、秦を破りました。呉起の軍は、新兵器である弩で武装しており、当時の最強軍だったのです。呉起は、後に楚の悼王に仕えて国政の改革に尽力し、兵家としての名声を博しました。

戦国初期の人、墨子(?~BC390頃)は、こうした自然破壊を憂い、節約型社会、小国を理想とする立場から、兼愛(普遍的な人類愛)、尚賢(出身に囚われない人材活用)と非攻(専守防衛、非戦論)など10論を説いて、儒家と並ぶ、一大教団の祖となりました(儒家とは、厚葬の是非等を巡って激しく対峙したのです)。現在では、儒家、墨家、兵家、道家(老子)などは、あまり時をおかずして、同じ頃に誕生したと考えられています。墨家は、その強固な教団性の故に、後に、始皇帝や[西]漢の弾圧を受けて、姿を消すことになるのです。